

EU Indicators

欧州経済指標コメント：12月ドイツ I f o 企業景況感

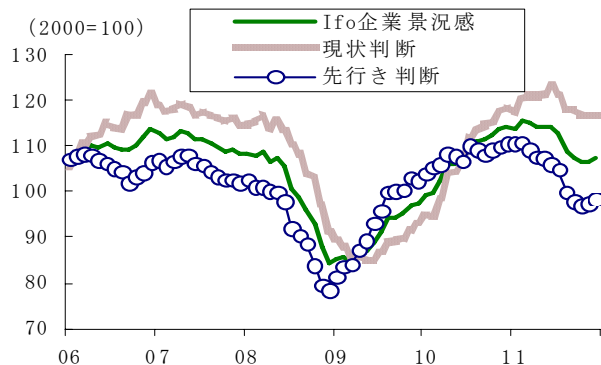
発表日：2011年12月21日(水)

～ユーロ圏内で景気後退の兆しが広がるなか、一筋の光明～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

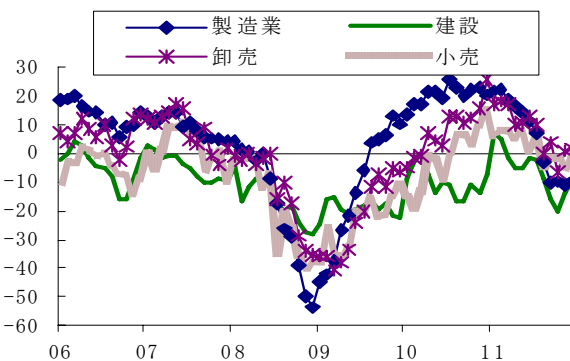
- 12月のドイツの I f o 企業景況感指数は小幅悪化との事前予想を覆し、2ヶ月連続で改善した。現状判断が前月から横ばいとなった一方、先行き判断が2ヶ月連続で改善した（左）。先行き判断の改善を主導したのは建設業、小売業、卸売業など内需関連業種（右）。秋口以降に慎重姿勢が広がったが、雇用・所得環境が堅調を保つなか、国内需要の底堅さを背景に業況判断が上向いている。同日発表の1月のG f K消費者信頼感調査でも、家計心理が秋口の停滞から持ち直していることが確認された。
- 一方、製造業部門の先行きの業況判断は慎重姿勢が続いている。債務危機の深刻化に伴い、主要輸出相手国であるユーロ圏全般の景気の冷え込みが影響している模様。ただ、一段の業況悪化には歯止めが掛かっている。これは、米国やアジア新興国景気が減速をしつつも拡大基調を維持するなか、11月以降はユーロ安が進んでおり、域外向け輸出の拡大期待が支えとなっているためと考えられる。
- ドイツも債務危機の影響から無縁では要られない。但し、自国の財政引き締めが軽微なうえ、域外向け輸出と国内需要が支えとなって、景気の一時的な落ち込みは回避可能とみられる。一人気を吐くドイツまでもが倒れれば、ユーロ圏内は総崩れとなる。債務危機の行方は依然混沌としているが、景気と財政との負の連鎖の進行を食い止めるうえで、ドイツのアンカー役に期待したい。

■ドイツ I f o 企業景況感



出所：Ifo

■ドイツ：I f o 業種別の先行き判断



出所：Ifo

■ドイツ I f o 企業景況感

	2011				2011											
	1Q	2Q	3Q	4Q	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
企業景況感(総合)	114.7	114.2	109.6	106.7	114.1	114.4	112.8	108.6	107.4	106.4	106.6	107.2				
現状指数	119.5	121.9	119.1	116.7	121.4	123.3	121.3	118.1	117.9	116.7	116.7	116.7				
先行き指数	110.1	107.0	100.9	97.6	107.3	106.1	104.9	99.9	97.9	97.0	97.3	98.4				
業況判断	21.5	20.4	11.6	5.9	20.3	20.7	17.7	9.7	7.4	5.3	5.7	6.8				
製造業	29.1	27.7	16.2	8.9	27.4	27.3	23.0	15.3	10.4	9.6	8.6	8.6				
建設業	-5.5	-4.5	-5.8	-9.8	-5.7	-2.1	-0.8	-6.5	-10.0	-13.6	-9.2	-6.6				
卸売業	21.5	18.8	12.5	9.2	16.9	21.2	17.8	6.9	12.9	6.3	9.8	11.4				
小売業	11.6	11.9	4.9	3.0	15.0	11.3	10.4	1.5	2.9	1.9	1.3	5.8				

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。